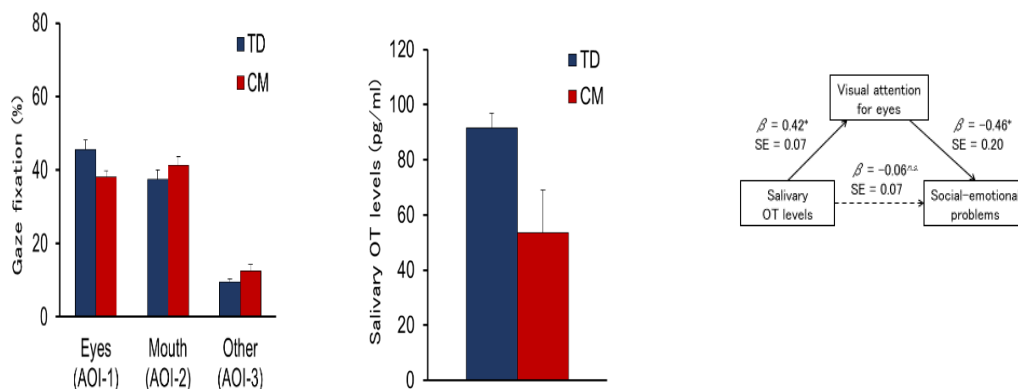


# マルトリートメント児における社会的注意の発達と唾液中オキシトシン濃度との関係を解明

福井大学子どもこころの発達研究センターの友田明美教授らの研究グループは、マルトリートメント児（CM：被虐待児群）21名と、コントロール群（TD：定型発達児群）29名を対象に、簡便で乳幼児でも使用可能な社会性発達を客観的に評価する装置 Gazefinder®を用いて、就学前後の CM 児を対象に社会的情報の動画に対する注視パターンや心理・行動上等の特性、また唾液中のオキシトシン量（OT 量）を調べました。その結果、CM 群は TD 群と比べて目への注視率が低い、つまり人の目を避ける傾向にある事が明らかになりました。

また CM 群と TD 群の唾液中 OT 量を比較した結果、CM 群の方が TD 群よりも有意に低い値が示されました。一方で視線と唾液中 OT 量・社会心理的問題の 3 つの関係性について調べたところ、目への注視率の低下が、CM 児の唾液中 OT 量と社会心理的問題の関係を媒介することを確認しました。これらの発見は OT が特にヒトの顔の目の領域に関して、CM 児たちの社会的（手がかりとしての視覚的）注意の制御に関与し、OT 量の低さが社会的注意の非定型発達に関連する社会心理的問題に間接的に影響することを示唆しています。CM 児の問題行動の重症度や社会性に関係するホルモン量の低下が視線のパターンと関連しているとすれば、就学後に出やすい問題を視線計測によって早期に発見し、早期支援・療育に繋がるものとして、意義深いと考えられます。本研究の成果は、2020 年 5 月 4 日に英国科学雑誌 Nature 系「Scientific Reports」に掲載されました。



詳細はこちらをご覧ください。

Suzuki, S., Fujisawa, T. X., Sakakibara, N., Fujioka, T., Takiguchi, S., & Tomoda, A. Development of Social Attention and Oxytocin Levels in Maltreated Children. *Scientific Reports*. (2020)10:7407. doi:10.1038/s41598-020-64297-6

<研究支援>

本研究は下記の日本学術振興会科学研究費補助金の支援により実施した成果です。

基盤 A、JST/RISTEX、AMED-BIRTHDSY、日米科学技術協力事業「脳研究」分野グループ共同研究助成、武田科学振興財団特定研究助成: いずれも友田明美

基盤 C: 藤澤隆史

若手研究: 滝口慎一郎